

# 栽培しやすく美味しい野菜づくりと食文化を豊かにする手伝いを。



戸口 誠仁

MASAHITO TOGUCHI

赴任地

 コロンビア

赴任地での職種(活動分野)  
病虫害対策

奈良県天理市  
大和農園 種苗販売部

学生時代は教員を目指し、人に指導するために知識を蓄えたいと大学院へ進学。院卒後、今度はもっと社会を知りたいと感じて、JICA海外協力隊に応募する。コロンビアで植物病理学の視点から研究アドバイスをを行い、帰国後、大和農園に勤務。日本はもちろん、世界の野菜の品質向上に注力している。

## そこで求められる野菜づくりを、一緒になって考える。

1920年の創業から、時代のニーズに合わせた新品種の育成に取り組む大和農園。主に野菜の品種改良を行う企業で、戸口さんは営業担当として日本中の種苗店を駆けまわっている。

きっかけは、コロンビアから帰国後の報告会。戸口さんの活動に関心をもった大和農園から声がかかった。知らない業界、そして学生時代はなりたくない職種だった営業という仕事に驚きはあったものの、国内外と様々な地域に行き、人と知り合い、学んできた知識と経験を前

線で活かせる内容に惹かれて入社。実際に、全国各地を訪問して、産地がそれぞれに抱える課題を聞き取り、品種提案や技術情報を提供する仕事にやりがいを感じている。

最近、JICAの中小企業支援案件でミャンマーを訪れ、特産もやし種子の収穫量を上げるための栽培指導と、獲れた種子の発芽率や純度を高めるための調整指導などにも協力。野菜の生産性や食味を高める戸口さんの仕事は、日本で、世界で、求められている。

## 自分が持つ知識や技術を伝えたくて、仕事を探すことからスタート。

戸口さんがコロンビアに着いた時、当初想定していた仕事になかった。本来は政府管轄下で研究室を整備し、コロンビアの財産でもあるバナナや珈琲などの果樹園を守る解決策を練るはずだった。しかし、ボランティア要請があってから赴任までの間に政権が交代し、研究室を立ち上げることができない状況に。まずは近隣の農地を巡回して野菜や果樹の病気に関する指導から始めるが、検査もせず「見る」だけの指導では「だと思っ」しか言えず、歯がゆい。自分の役目は何か。模索する中で、近隣大学で研究アドバイスをを行う仕事をきっかけに大学の研究室からオファーがあり、所属先を変更。こうして、病虫害対策を指導する体制が整った。



同僚と植物病害の分析中



同僚と植物病害の調査中



農家に植物病害の説明をしている様子

## 仕事や新しい学問に対する姿勢が違う中、共に現地の将来を考えることが大事。

コロンビアには植物病理学という学問がなく、その重要性は理解されにくかった。屈託のないコロンビア人だが、気楽な性質が仕事にも影響して、なかなかプロジェクトが進まない。戸口さんは積極的に栽培指導を行い、研究に対する技術や知識を提供し、理解者を増やしていった。国立大学の研究チームに参加して以降は研究指導を行い、植物病理学の重要性を感じてもらうことで、帰国後のコロンビアの植物を守れる人材育成につながった。「正しいと思ったことは第一線で主張して、みんなを引っ張り上げて良い方向に向かわせる。それが、JICA海外協力隊が赴任する意味だと思う」。帰国後の赴任地を想像し、行動した戸口さんの想いは、周囲の人々に伝わっているだろう。



## 相手の意見にじっくり耳を傾け、自分の意見もしっかり伝える。

日本の常識は通じない環境、文化や考え方が異なる人々との出会いを経て、「違うことが面白い」と考えるようになった戸口さん。さらに、主張の強いコロンビア人との討論でメンタルも鍛えられた。この経験は、営業として新たな場所に行き、知らない人と会話するうえで大いに生きている。各産地の事情や考え方を否定せず、なぜそのような状況なのか背景を想像する。もちろん自分の意見もしっかり述べる。お互いに思いを伝えあうことがより良い結果につながっていく。向こうで得た自分とは全く異なる視点で物事を見る力、固定概念に対して常に疑問を持つ力は、どのような場面においても役立ち、戸口さんを助けている。



スイカ苗の良し悪しについて同僚たちと協議している様子



## 地域の発展と食文化の豊かさは、密接に結びついている。

コロンビアには生野菜を食べる習慣がなかった。栽培技術や品種、さらに暑さの影響で野菜が甘くなりにくく、洗う水道水も安全ではないために生で食べるとお腹を壊しやすいからだ。日本の美味しい野菜は世界的にみると贅沢品なのかかもしれない。また、日本でもスーパーに並ぶ野菜は耐病性を重視した品種がほとんどで、その野菜本来の味が損なわれているものも多い。世界の、国内にもあるこの食の格差をなくし、美味しい野菜をみんなに食べてほしいと戸口さんは願う。「野菜の新品種を開発する会社で、新しい情報をいち早く仕入れ、自社の品種改良に活用することが私の考える地域貢献。そうして作った、より美味しく、より病気に強い新品種を販売していくことで、野菜づくりに悩む人々をサポートします」。

上司に聞く!



株式会社大和農園 種苗販売部 部長 内田 健志さん

お客様や生産者様の懐に飛び込むことが上手な戸口さん。相手が何を考え、どうしたいのかを想像する姿勢や、行動に計画性を持つことなどは、期限ある中で成果を最大化できるように取り組んだJICA海外協力隊での経験が大きいと思います。見知らぬ土地でも能力を発揮されたように、現在の職務でも未経験領域に挑戦し、さらに活躍してほしいです。

JICA海外協力隊を目指すみなさんへ 参加を迷っているのなら、まずは行ってみて!

海外旅行で短期間にいろいろな風景を見るのも素敵ですが、国民性や政府の思想などを知ると、その国や地域の内面が見えてきます。文化とは言語と風土が合わさって形成されたもの。一つの国に長く住み、言葉を覚え、風土を感じることで知り得ることは多く、そこから学ぶことは人生を左右します。